

鹿病防第11号
平成21年6月12日

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察特殊報第2号について

本県のソリダゴに発生したがんしゅ症状は、*Agrobacterium tumefaciens* による「ソリダゴ根頭がんしゅ病（新称）」と同定され、特殊報第2号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第2号

平成21年6月12日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 ソリダゴ根頭がんしゅ病（新称） *Agrobacterium tumefaciens*

2 作物名 ソリダゴ

3 発生確認及び発生状況

平成9年頃に大島郡知名町、和泊町及び与論町のソリダゴで切り花収穫後の切り下株にがんしゅ症状が発生し、二度切り栽培で採花本数の減少や品質低下が問題となった。平成12年には与論町のさし芽床でも本症状が発生し、生育不良や枯死が問題となった。その後、県内各地でも同様の症状が認められたが、現在は土壤消毒等の実施により少なくなっている。

これまで発生原因が不明であった本症状について、農業開発総合センター大島支場で菌の分離、接種を行った結果、平成21年2月にソリダゴでは未記録の*Agrobacterium tumefaciens* bv.1と同定された。

4 本病の特徴

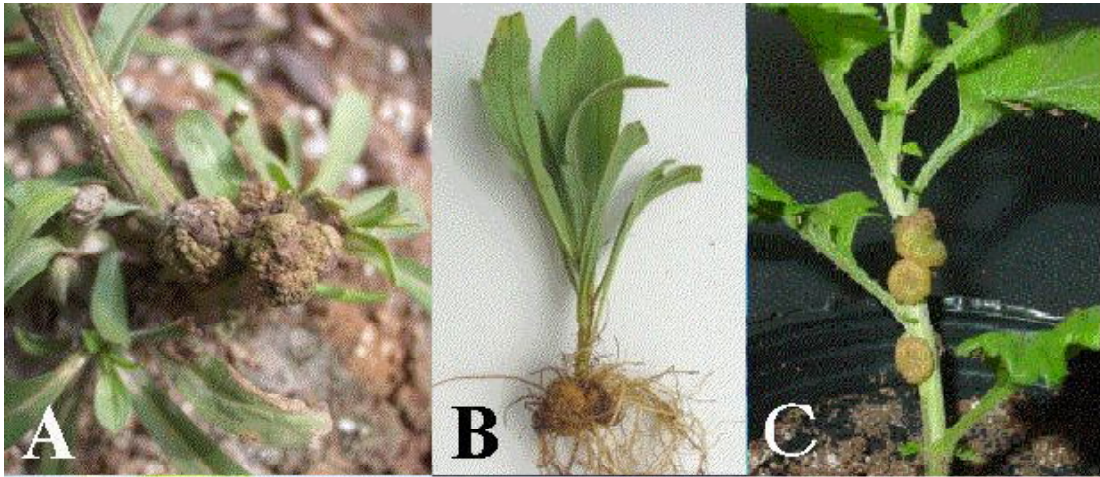
被害：生育初期の苗や切り花収穫後の切り下株の地際部（第1図A）にがんしゅ症状を形成し、さし芽苗（第1図B）においても発生する。本病が発生した株は萌芽が悪く、二度切り栽培では採花本数の減少や生育不良、採苗用の親株では採苗本数の減少を招く。激しく発病した場合は、枯死に至る。

病原性：本病原菌は多犯性で、キクにもソリダゴと同様のがんしゅ症状を引き起こす（第1図C）。

伝染：傷口からの感染が主であり、土壤伝染する。

5 防除対策

- （1）発病後の防除は困難なので、病原菌を持ち込まないよう健全母株から採苗するとともに、育苗床は土壤消毒する。
- （2）発生株は速やかに除去し、発生ほ場での連作は控える。
- （3）本病にはダゾメット粉粒剤が登録されているので、発生ほ場では本剤を用いて土壤消毒する。



第1図 ソリダゴに生じたがんしゅ症状と接種したキクでの病徴

A ソリダゴの切り花収穫後の切り下株に自然発生したがんしゅ症状の形成

B ソリダゴのさし芽苗に自然発生したがんしゅ症状

C キク「イエローシューズ」に有傷接種し、14日後に生じたがんしゅ症状